

FOCUS NOW

2020年11月期上半期の事業トピックス

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 01 ごあいさつ | 05 事業ハイライト |
| 02 2020年11月期
連結業績予想の修正 | 07 連結財務ハイライト |
| 03 2020年11月期上半期の
事業トピックス | 09 株主の皆さまとの
コミュニケーション広場 |
| | 10 コーポレートデータ |

都市に、心を。



トーセイはコロナ後を見据え 持続的な成長に向けて 邁進いたします

代表取締役社長

山口 誠一郎



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間は、4月から5月において新型コロナウイルス感染症の拡大(以下、コロナ禍)による緊急事態宣言下での事業活動となりました。自社運営ホテルの休業や不動産流動化事業ならびに不動産開発事業において仕入販売業務に一定期間の停滞がありましたが、トーセイグループは、お客さまと従業員の健康と安全を第一に、接客時における感染防止対策やリモートワークの導入などWithコロナを踏まえた業務体制を確立し、5月には分譲マンション「THEパームス相模原パークブライティア(全243戸)」のうち240戸を予定通り引き渡しを完了させたほか、不動産ファンド・コンサルティング事業では新規業務受託を獲得し受託資産残高を9,258億円まで順調に伸ばすなど、積極的に事業を進めてまいりました。これらの取り組みにより各事業の収益は好調に積み上がり、ホテルの休業等の影響を織り込んでも、通期見込みでは税引前利益は当初計画の**130億円**に対し**117億円**まで見通せる状況にありました。

しかし、コロナ禍の収束時期が未だ見通せず、世界的な景気後退により将来の収益不動産の流動性低下や市場縮小が予見されることから、当社は2009年の金融危機を乗り切った経験をもとに、この危機に迅速に対処することが重

要と判断しました。具体的には、現時点において当社が想定する複数のシナリオのうち、最も保守的なシナリオに基づき、販売用不動産の価値を厳しく評価し、収益性が低下したホテル施設・商業施設等について**評価損76億円を計上**することと致しました。この影響により、通期の税引前利益予想を8,976百万円減の4,070百万円、当期利益予想を6,396百万円減の2,411百万円に下方修正することとなりました。

なお、当社は多事業展開によるポートフォリオ経営により安定収益事業で固定費をカバーできる収益構造を確立しています。また、手元資金の確保と資金調達率の長期化により高い財務健全性を持つ盤石な経営基盤を構築しており、コロナ禍を迎え撃つための不況抵抗力は十分に備えられていると考えています。

今後、不動産投資市場は調整期が続くと見ております。トーセイグループはコロナ後を見据え、このたびのコロナ禍がもたらした社会変化に対応する商品ポートフォリオの再構築やアセットタイプの多様化を進めるとともに、不動産市場の動向を一層注視して事業を推進してまいります。今後も当社グループは持続的な成長を目指し、全社一丸となって事業活動に邁進していく所存です。

今後とも、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年11月期 連結業績予想の修正

当上半期の利益進捗は順調に推移し、税引前利益において当初の通期計画130億円に対し、117億円で見通せる状況にありました。

しかし、コロナ禍の収束が見通せない状況下で、当社は①②の理由により売上高を648億円(当初計画比19.2%減)、営業利益を46億円(同65.9%減)、税引前利益を40億円(同68.8%減)に修正いたしました。

①販売時期の見直し

不動産売買市場に一定の流動性が見られてから販売することが適当と考え、一部の販売物件の売却時期を翌期以降へ見直し(売上高▲154億円)

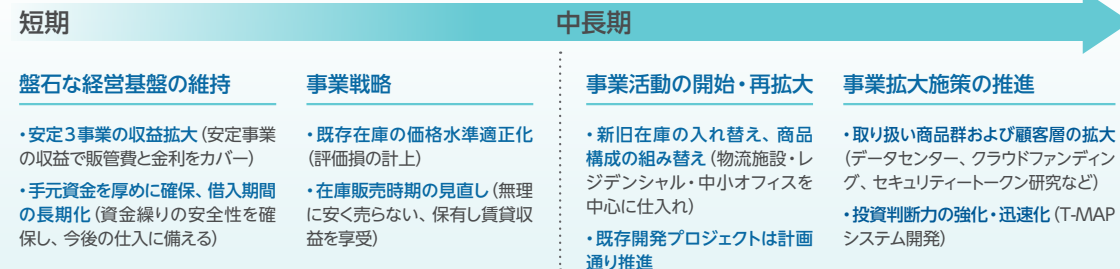
②評価損の計上

ホテルおよび商業施設を中心に、将来売却額を保守的に見積もり、76億円の評価損を計上。既存在庫の価格水準を適正化することにより、機動的な物件売却が可能になります。コロナ禍収束後、ホテルや商業施設等の稼働状況が戻るなどマーケットが改善した状況になれば、評価の上方見直しも出来ると考えています。

(億円)	上半期実績		通期予想			
	評価損前	評価損後	期初予想	修正予想	増減額	増減率
売上高	450	450	803	648	▲154	▲19%
営業利益	98	21	137	46	▲90	▲66%
税引前利益	95	18	130	40	▲89	▲68%
当期利益*	64	11	88	24	▲63	▲73%

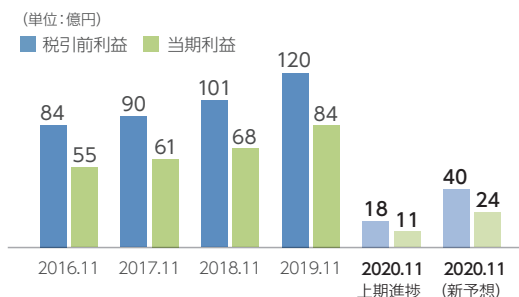
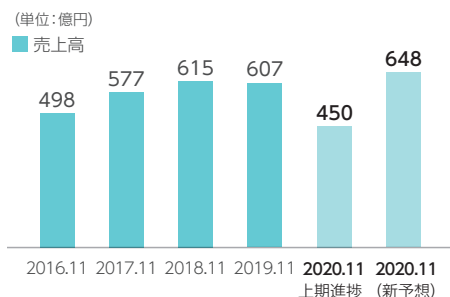
*親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益

コロナ禍を踏まえた今後の経営戦略



通期のセグメント別見直し

下半期の売買事業*1は保守的かつ戦略的に販売抑制の予想ですが、安定収益事業*2で販管費と金利をカバーし、利益が積み上がるため、通期利益は黒字となる見通しです。



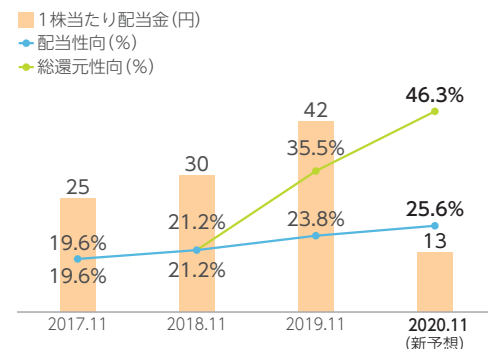
配当予想の修正

2020年11月期の配当につきましては、1株当たり47円の予想としておりましたが、期末配当につきましては、当初計画の配当性向(25.4%)の水準を踏まえ、34円減額し、1株当たり13円とさせていただきます。

2020年4月6日に発表いたしました自己株式の取得(5億円)を含めると、総還元性向は46.3%となります。

なお、上記に加え、当社グループは2019年11月期より株主の皆様への利益還元の一つとして株主優待制度を導入しておりますが、当期以降も現行の株主優待制度を継続いたします。

1株当たり配当金と配当性向



*1 不動産流動化事業、開発事業 *2 不動産ファンド・コンサルティング事業、賃貸事業、管理事業、ホテル事業

～アセットマネジメント受託資産残高～ 過去最高の9,200億円を突破しました

物流施設やヘルスケア施設など運用アセットの多様化を推進し、大型契約を獲得

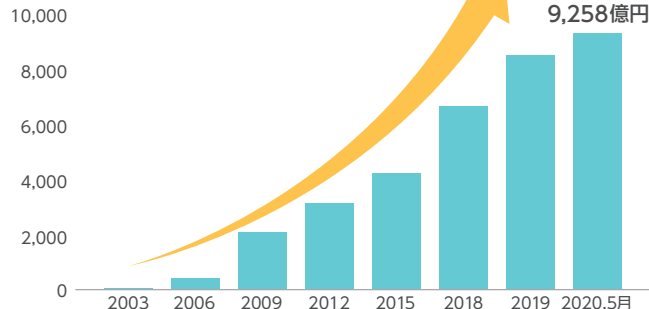
トーセイグループのアセットマネジメント受託資産残高が、2020年5月末時点で過去最高の9,200億円に到達しました。

2020年11月期は、受託資産残高を9,160億円まで積み上げる計画としていましたが、米国・欧州のほかシンガポール、韓国、香港をはじめとする海外投資家、国内大手機関投資家から大型の新規受託を獲得し、このたび半期前倒しで目標を達成することができました。受託に付随する仲介報酬などもあり、当期の不動産ファンド・コンサルティング事業のセグメント利益は、期初予想比で倍増の35.8億円となる見込みです。

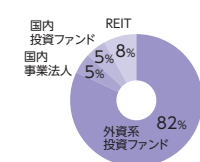
さらなる成長に向けて、物流施設やヘルスケア施設など、取り扱いアセットの拡大に努めています。今後も国内外の投資家からの信頼獲得に努め、日本の優良収益不動産への投資につなげてまいります。

受託資産残高

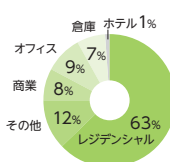
(単位: 億円)



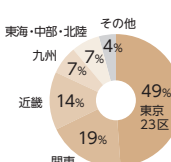
顧客層



アセットタイプ

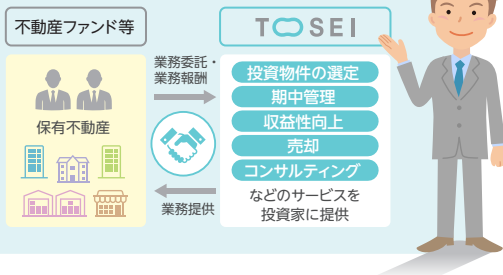


地域



アセットマネジメント業務とは?

不動産ファンドやREITをはじめとする国内外の不動産投資家の皆さまが保有する不動産を、不動産のプロフェッショナルであるトーセイグループがお預かりして、運用管理(＝アセットマネジメント)を行う業務です。不動産市況の見通しが不透明となった現在の環境下においても、安定して業務報酬を得られるビジネスであり、トーセイグループが強みとする事業の一つです。



不動産ファンド・コンサルティング事業の新たなサービスメニュー

～オンラインで10万円から手軽に始める不動産投資～ 「トーセイ不動産クラウド」サービスを開始しました

トーセイグループの新たな事業として、不動産特定共同事業法に基づくSPCを活用した国内初のクラウドファンディングサービスを開始しました。

当社グループは東京圏で不動産業を営み、個人のエンドユーザーからファンド機関投資家まで幅広い顧客層を持つことが強みですが、本サービスの開始により、これまでアプローチできなかった全国の幅広い層の投資家の皆さまへ、プロ向け不動産投資商品への投資機会を提供することができます。新たなお客さま、トーセイファンを獲得を目指します。

不動産ビジネスの実績と信頼。
トーセイとはじめる、
不動産クラウドファンディング。

TREC FUNDING

トーセイ不動産クラウド

<https://trec-funding.jp/>



ESGを意識した 事業活動



トーセイグループは、あらゆるステークホルダーの皆さまにとって存在価値のある企業であり続けられるよう、ESG経営の実践に努めています。2020年11月期からは、国連が定める持続可能な開発目標「SDGs」を当社グループのESG経営における重要な指標と位置づけ、持続可能な社会の実現に向けて果たすべき役割を定め取り組みを開始いたしました。

地球にも人にも優しい発想の住まいづくりで、 SDGsへの貢献を目指しました

SDGsへの貢献を初めて商品企画に盛り込んだプロジェクト
「THE パームスコートひばりが丘」が完成しましたので、ご紹介いたします。

分譲戸建「THE パームスコートひばりが丘」全30邸



事業を通じたSDGsへの貢献として、「緑の保全」「省エネとゴミの削減」「節水と水資源の保全」「防犯と防災」の4つのテーマを設定。

“地球にも人にも優しい、住み続けられる住まい”を目指し、自然と融和した街並みをデザインしたほか、省資源や省エネルギー、お客さまの安心安全な暮らしをサポートする設備仕様を厳選して導入するなど、工夫を凝らしました。

貢献を目指した
SDGsの6つの目標



導入した設備例

エネルギーを節約

断熱等性能等級4相当の断熱仕様やLED照明、人感センサーなどを採用し、無駄な電力消費を抑制

水を大切に

外構に保水性ブロックを敷設したほか、雨水タンクや節水仕様の水回り設備を採用し、水資源の無駄づかいを削減

みんなが安心

灯りの協定を導入、街灯付き門柱、スマートフォン連動テレビドアホンで家族の安心安全を守ります

THE パームスコートひばりが丘の街の魅力、住まいの心地よさを追求するために、そこに住まう方が自然な形で環境や社会へ貢献できるように、SDGsから発想した未来志向の戸建住宅を企画しました。お客様からも、省エネや災害への備えなどしっかり考えて創られているとご評価いただいています。



企画メンバー（斉藤、日下部、坂本、藤野）

不動産再生で、地域の不動産を大切に活用します

これまでの豊富な再生経験を活かし、老朽化が進んだ研修施設を多機能ホテルに改修しました。

～ホテルコンバージョン案件第二弾～ トーセイホテル&セミナー幕張

「トーセイホテル&セミナー幕張」は、京葉線新習志野駅から徒歩2分に立地。東京駅から電車で35分のアクセスを強みに、企業研修など団体の宿泊研修ニーズに応える、研修施設とホテル機能を併せ持つスタイリッシュな多機能ホテルに全館改修しました。

このような既存不動産の再生/活用は、壊して建てる新規開発に比べて環境への負荷が少なく、社会や地域への貢献と事業成長を両立できる取り組みだと考えています。トーセイは不動産資源を大切に活用してまいります。



客室をグループで宿泊できるデスク付き客室へ改修



明るく開放感のあるエントランスロビー

連結業績

売上高 **450.5億円** 前年同期比 **30.8%増** ↑ 売上総利益 **68.3億円** 前年同期比 **42.9%減** ↓



不動産流動化事業

売上高構成比 **61.4%**

中古の不動産を取得し、バリューアップ(大規模改修)やコンバージョン(用途変更)を施した後に「再生不動産」として販売する事業です。

売上高 **276.7億円** 売上総利益 **64.2億円**
前年同期比 **62.1%増** ↑ 前年同期比 **12.2%増** ↑

- ◆ トーセイ・リート投資法人向け3物件を含めた29物件を販売
- ◆ 棚卸資産の評価損 **14億円**を計上

販売物件(一例)



横浜市 収益ビル



松戸市 収益アパート



西東京市 収益マンション



柏市 収益マンション



茅ヶ崎市 空ビル



不動産開発事業

売上高構成比 **22.0%**

開発用の用地を取得し、エリアやニーズの特性に合わせて、オフィスビル・マンション・戸建住宅・商業施設・ホテル・物流施設などの新築開発を行い、販売する事業です。

売上高 **99.1億円** 売上総利益 **△39.7億円**
前年同期比 **3.1%減** ↓ 前年同期 **24.0億円** ↓

- ◆ 新築分譲マンション「THEパームス相模原パークブライティア」を240戸販売
- ◆ ホテル・商業施設を中心に棚卸資産の評価損 **62億円**を計上

開発物件(一例)



THEパームス相模原パークブライティア



THEパームスコート船橋法典



T's BRITHIA
富士見台



THEパームスコート国分寺
恋ヶ窪



不動産ファンド・コンサルティング事業

売上高構成比

4.9%

不動産ファンドのアセットマネジメント業務を行う事業で、トーセイ・リート投資法人の資産運用も受託しています。

売上高 **21.8億円** 売上総利益 **21.1億円**
 前年同期比 **65.8%増** 前年同期比 **69.1%増**

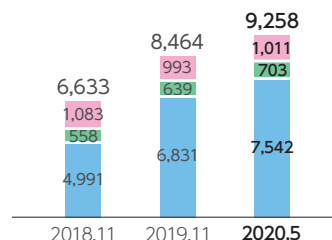
- ◆ 米国・ドイツ・韓国などの海外投資家からの新規受託により受託資産残高は9,258億円まで伸長

※CRE (Corporate Real Estate) とは、「企業の保有する不動産の最適かつ効率的活用」に関するコンサルティング業務を行うもので、残高はその対象不動産の合計額を表しています。

受託資産残高

(単位: 億円)

■ CRE※ ■ REIT(トーセイ・リート) ■ 私募ファンド



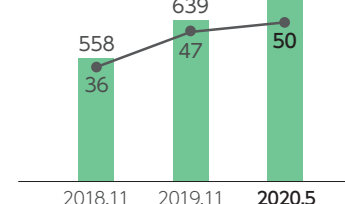
トーセイ・リート投資法人

(証券コード: 3451)

当社がスポンサーを務め、またトーセイ・アセット・アドバイザーズが資産運用を行うトーセイ・リート投資法人は、2020年5月までの半年間で新たに64億円(3物件)の資産を増やし、703億円の資産規模となりました。

(単位: 億円/棟)

■ 資産残高
● 棟数



不動産賃貸事業

売上高構成比

6.1%

利便性の高い東京都区部を中心に、グループが所有するオフィスビルやマンションなどを賃貸し、安定的な収入を得る事業です。

売上高 **27.6億円** 売上総利益 **11.5億円**
 前年同期比 **6.6%減** 前年同期比 **10.1%減**

- ◆ 74棟の賃貸物件を保有
 ◆ 賃料減額や支払猶予の要請はあるものの、影響額は僅少



不動産管理事業

売上高構成比

6.3%

オフィスビルなどの建物管理、設備管理、保安警備、テナント管理など、総合的なプロパティマネジメントを行う事業です。

売上高 **28.3億円** 売上総利益 **9.6億円**
 前年同期比 **2.3%減** 前年同期比 **8.2%増**

- ◆ ビル436棟、マンション253棟、計689棟を管理(前期末比+30棟)
 ◆ コロナ禍によりホテルの管理収入は減少したものの、物流施設のPM受託増により利益は伸長



ホテル事業

売上高構成比

0.6%

宿泊需要が旺盛な東京都区部を中心にホテルを展開し、自社運営収入や賃貸収入を得る事業です。

売上高 **2.7億円** 売上総利益 **2.3億円**
 前年同期比 **54.3%減** 前年同期比 **54.9%減**

- ◆ コロナ禍によるホテルの休館および開業延期により、売上・利益ともに大幅に減少

(注) 2019年11月期よりホテル事業を新設しています。

(注) 各事業セグメントの売上高および売上総利益には、セグメント間取引が含まれています。

連結財務ハイライト (2020年11月期上半期)

● 包括利益計算書 (損益計算書)

売上高 **450.5億円** 営業利益 **21.7億円**
 前年同期比 **30.8%増** ⬆️ 前年同期比 **72.7%減** ⬇️

税引前利益 **18.9億円** 当期利益* **11.4億円**
 前年同期比 **75.2%減** ⬇️ 前年同期比 **78.1%減** ⬇️

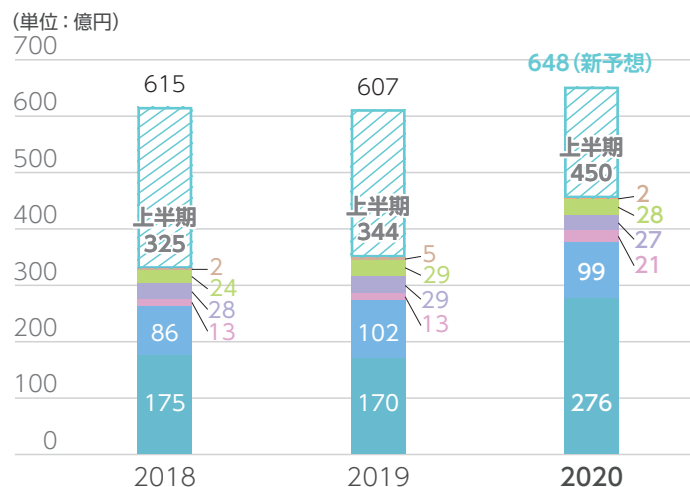
* 親会社の所有者に帰属する当期 (四半期) 利益

● 経営指標

	2018.11	2019.11	2020.11 (新予想)
親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)(%)	14.0	15.3	4.1
資産合計税引前利益率(ROA)(%)	7.8	8.0	—
基本的1株当たり当期利益(EPS)(円)	141	176	50
1株当たり親会社所有者帰属持分(BPS)(円)	1,071	1,225	—

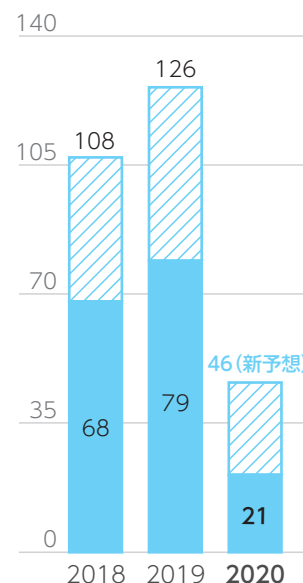
● 売上高の推移

■ 不動産流動化事業* ■ 不動産賃貸事業*
 ■ 不動産開発事業* ■ 不動産管理事業*
 ■ 不動産ファンド・
 コンサルティング事業* □ 通期
 ※ 上半期の売上高



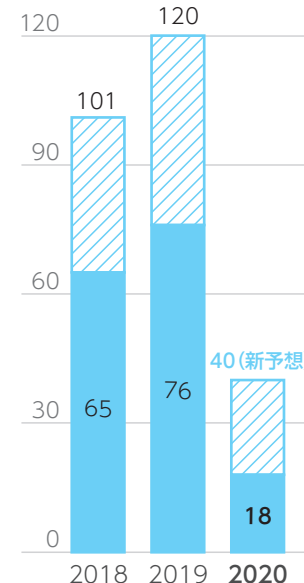
● 営業利益の推移

■ 上半期 □ 通期
 (単位: 億円)



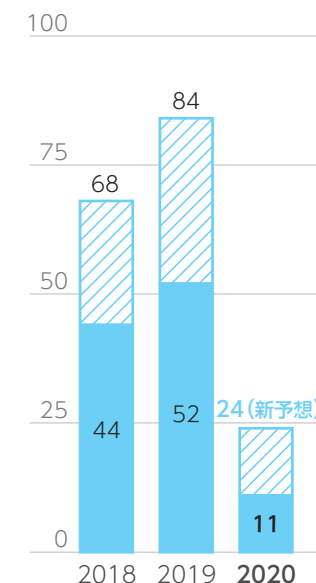
● 税引前利益の推移

■ 上半期 □ 通期
 (単位: 億円)



● 当期 (四半期) 利益* の推移

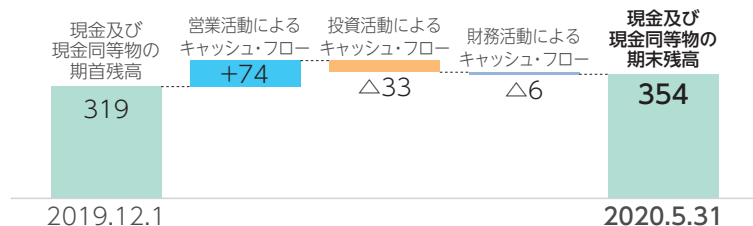
■ 上半期 □ 通期
 (単位: 億円)



(注) 各事業セグメントの売上高にはセグメント間取引が含まれており、売上高合計はセグメント間取引消去後の数値を記載しています。
 (注) 2019年11月期よりホテル事業を新設しています。比較参考のため、2018年11月期の数字は変更後の区分に組み替えて表示しています。

●キャッシュ・フロー計算書

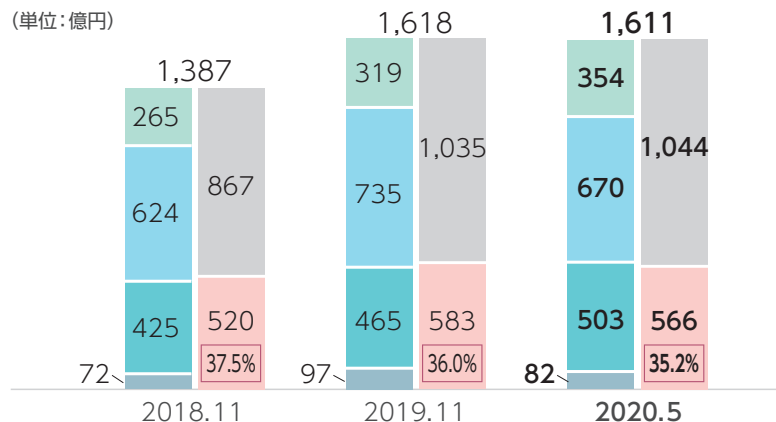
(単位:億円)



- 営業活動によるキャッシュ・フロー** (+: 現預金の増加 (−): 現預金の減少
税引前四半期利益18億円の計上(+)、棚卸資産10億円の増加(−)、棚卸資産の評価損76億円の取得(+)、法人所得税18億円の支払(−) など
- 投資活動によるキャッシュ・フロー**
投資不動産31億円の取得(−)、有形固定資産1億円の取得(−) など
- 財務活動によるキャッシュ・フロー**
借入金22億円の増加(+)、配当金19億円の支払(−)、利息4億円の支払(−)、自己株式2億円の取得(−) など

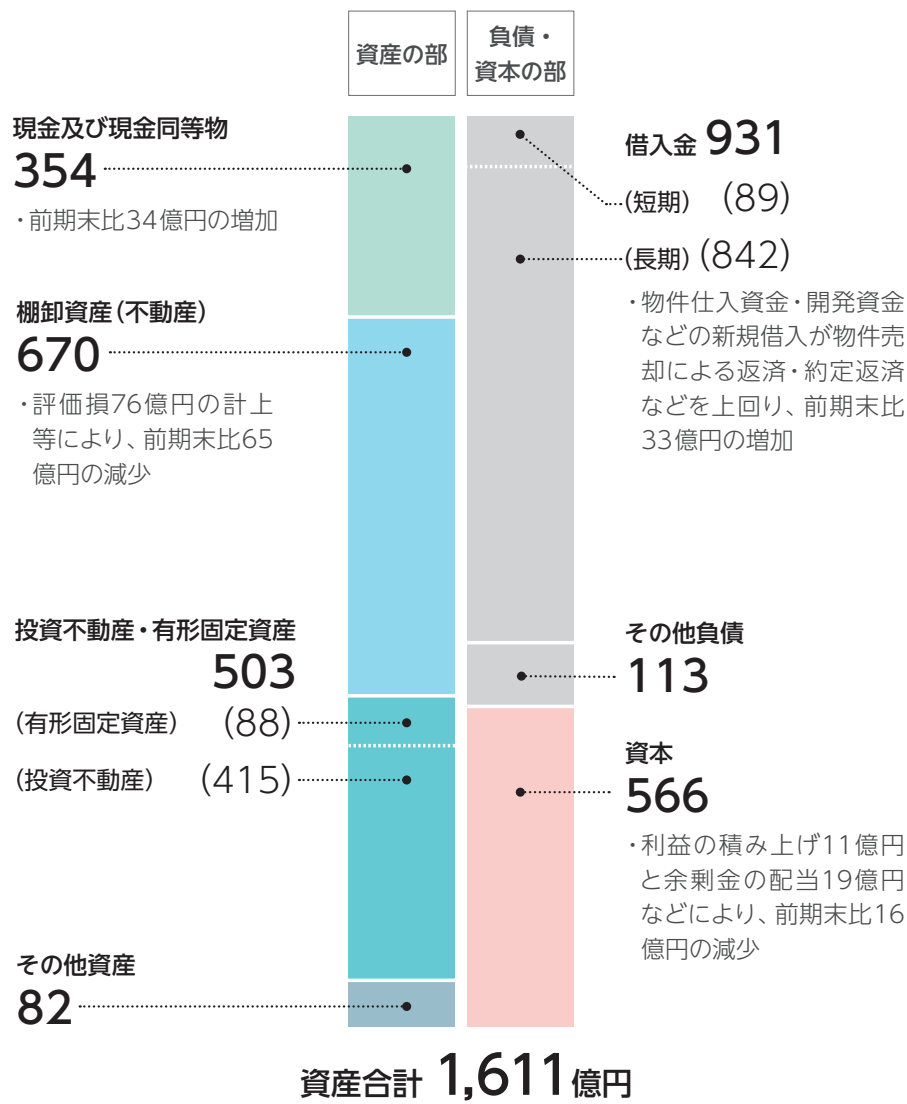
●財政状態計算書の推移

- 現金及び現金同等物
 - 棚卸資産
 - 投資不動産・有形固定資産
 - その他資産
 - 負債合計
 - 資本合計
- 注) $\square$ は自己資本比率 (資本合計 ÷ 資産合計)



●財政状態計算書(貸借対照表)

(単位:億円)



株主の皆さまとの コミュニケーション広場

2019年11月期「TOSEI REPORT」のアンケートにおいて1,182名の株主の皆さまより貴重なご意見・ご感想をいただきました。ありがとうございます。ここでは、お寄せいただいたご質問・ご要望の一部をご紹介します。なお、4月以降、コロナ禍の影響についてのご質問を多数いただきましたので、そちらのご質問を中心に答えいたします。

Q. 新型コロナウイルス感染症拡大（以下、コロナ禍）の影響が各業界で見られていますが、トーセイの業績や市況にはどのような影響がありますか？

A. 不動産投資市場では、コロナ禍を背景に不動産投資家が様子見の姿勢となっていることから、不動産価格と流通量に低下が見られています。今後、短期で回復するのか長期化するのか不透明であり、**当社は保守的なシナリオのもと、当上半期に棚卸資産の評価損76億円を計上し、当期の通期業績予想を下方修正しました。**

ただし、すべてのアセットタイプの市況が一律に悪くなったわけではなく、**今回の評価損76億円**の大半は、**利用者の戻りに時間がかかると予想されるホテル施設（50億円）と商業施設（9億円）**です。どちらも**投資用不動産としての価値低下を厳しく評価すべきと考えました。**なお、現時点では、ホテルマーケットを厳しく見していますが、今後市況が改善すれば、評価の上方見直しもできると考えています。他のアセットタイプについては、eコマースで需要が拡大した物流施設や、不景気でも需要が底堅い分譲住宅や都心収益マンション、都心オフィスは引き続き流動性が期待できると考えています。



Q. テレワークの普及でオフィス需要が減退するという記事を見ますが、オフィス賃貸市場は悪くなりそうですか？

A. 東京都にある企業の事業所数では、従業員数50人未満の中小オフィスが約95%を占めています。中小企業ではテレワークの導入がなかなか進んでいないこともあり、都心のオフィス需要が一気に減退するとは思えません。今後、テレワークやサテライトオフィスの活用は一定量増加すると予想されますが、**影響は限定的で、当社が得意とするB・Cクラスビルの需要は継続すると考えています。**

Q. 個人投資家向け説明会を開催して欲しいです

A. 例年では、大阪と東京で個人投資家さま向け説明会を開催しておりましたが、当期は新型コロナウイルス感染症の拡大防止を優先して春に予定していた説明会の開催を見合わせました。代わりに、**秋頃にオンラインでのライブ説明会を予定しておりますので、ぜひご参加ください。**詳細はHPIにて追ってご案内いたします。



🔍 トーセイ 不動産

検索

コーポレートデータ (2020年5月31日現在)

●会社概要

商号	トーセイ株式会社
代表者	山口 誠一郎
設立	1950年2月2日
所在地	東京都港区虎ノ門四丁目2番3号
資本金	6,600,204千円
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード:8923) シンガポール証券取引所メインボード(証券コード:S2D)
従業員	200名(連結502名)
事業内容	不動産流動化事業、不動産開発事業、不動産賃貸事業、 不動産ファンド・コンサルティング事業、不動産管理事業、ホテル事業
許認可等	宅地建物取引業、特定建設業、一級建築士事務所、 第二種金融商品取引業、投資助言・代理業、 一般不動産投資顧問業、不動産特定共同事業
主要な関連会社	トーセイ・コミュニティ株式会社 トーセイ・アセット・アドバイザーズ株式会社 トーセイ・リバイバル・インベストメント株式会社 Tosei Singapore Pte. Ltd. トーセイ・アーバンホーム株式会社 トーセイ・ホテル・マネジメント株式会社 トーセイ・ホテル・サービス株式会社

●役員

代表取締役社長 執行役員社長	山口 誠一郎	監査役(常勤)	北村 豊
取締役専務執行役員	平野 昇	監査役(常勤)	八木 仁志
取締役常務執行役員	渡辺 政明	監査役(非常勤)	永野 竜樹
取締役常務執行役員	中西 秀樹	監査役(非常勤)	土井 修
取締役執行役員	山口 俊介		
取締役執行役員	大島 均	執行役員副社長	小菅 勝仁
社外取締役	少徳 健一	執行役員	藤原 宣人
社外取締役	小林 博之	執行役員	倉本 幸二
社外取締役	山中 雅雄	執行役員	米田 浩康

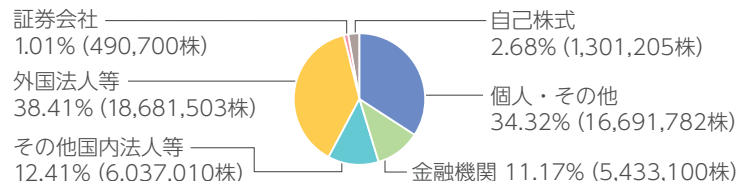
●株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	48,635,300株
株主数	5,073名

●利益還元

	2018.11	2019.11	2020.11
配当金(円)	30	42	13(予想)

●所有者別株式分布状況



●大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
山口誠一郎	12,885,500	27.22%
有限会社ゼウスキャピタル	6,000,000	12.67%
KBL EPB S.A. 107704	3,759,800	7.94%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,933,900	4.08%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,673,100	3.53%
GOVERNMENT OF NORWAY	1,582,000	3.34%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,051,600	2.22%
JPMC GOLDMAN SACHS TRUST JASDEC LENDING ACCOUNT	1,043,100	2.20%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	730,400	1.54%
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	618,523	1.30%

持株比率は、自己株式(1,301,205株)を控除し、小数点以下第3位を切り捨てて算出しております。

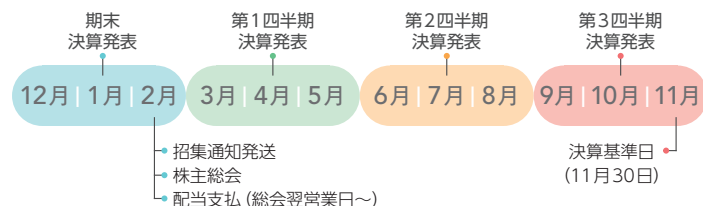
株主優待

毎年11月30日を基準日とし、
当社株式1単元(100株)を保有されている
株主さまを対象に当社オリジナルの
QUOカード1,000円分を年1回贈呈します。



T O S E I

IRカレンダー



都市に、心を。

トーセイは、あらゆる不動産シーンにおいて
新たな価値と感動を創造する「都市創造業」として、
都市の魅力を高めることを目指しています。

魅力的な都市・建物をつくるためには、すべてを壊して建て替えるのではなく、
それぞれの土地が持つ個性にあわせた柔軟な取り組みが必要であると考えています。
新たな価値と感動を創造するために、心を込めて、都市をつくりあげていく——
「都市に、心を。」は、こうした思いを表しています。

株主メモ

事業年度	12月1日から11月30日まで
定時株主総会	毎年2月下旬
基準日	11月30日
剰余金の配当の 基準日	5月31日、11月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告 (https://www.toseicorp.co.jp/ir/publicly/index.html) ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない 事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社に口座を お持ちの場合	特別口座の場合
連絡先	お取引の証券会社にな ります。	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問い合わせ先		0120-232-711 (フリーダイヤル)
ご注意	未受領の配当金につ きましては、三菱UFJ 信託銀行本支店で お支払いいたします。	株式売買はできません。

T O S E I トーセイ株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目2番3号 虎ノ門トーセイビル
TEL. 03-3435-2865

Q トーセイ 不動産 検索



<https://www.toseicorp.co.jp/>



東京証券取引所市場第一部
(証券コード：8923)



シンガポール証券取引所メインボード
(証券コード：S2D)



トーセイ・リート投資法人
(証券コード：3451) ※
※トーセイ・アセット・アドバイザーズが
資産運用を委託する投資法人